

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

安曇野市教育委員会学校教育課
教育指導室

「令和3年度全国学力・学習状況調査」が5月27日に行われ、市内小中学校17校でも実施しました。その結果が8月31日に公表されました。安曇野市教育委員会では、教育施策に役立てるため、市校長会と協働して組織した学力向上推進委員会にて結果の詳しい分析・考察を行いましたので、その概要を報告します。

調査の概要

- 調査の名称 令和3年度全国学力・学習状況調査
- 実施日 令和3年5月27日（木）
- 実施学年 小学校6年生（10校、731人）、中学校3年生（7校、804人）
- 調査の内容
 - ①教科に関する調査
 - ・小学校…国語、算数（2教科）
 - ・中学校…国語、数学（2教科）
 - ②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査

国語、算数・数学の学力状況

【傾向と課題】

各調査全体の平均正答率を見ると、一昨年は中学校数学が県を少し下回る結果でしたが、今回は全国や県を下回る教科はありませんでした。

具体的には、小学校では国語は全国を少し上回り、県を上回りました。算数は全国とはほぼ同じでしたが、県を少し上回りました。中学校では国語が全国と県を上回り、数学は全国を少し上回り、県を上回るという結果でした。

正答数の分布を詳しく見ると、小学校国語は全国や県に比べ正答数が多い層の割合が高くなっています。一方、算数はほぼ同じでしたが、中位以下の層にも厚みがありますので、やや苦手としている児童の力を伸ばすように指導することが改善の方向と考えられます。

中学校国語の正答数の分布は、正答数のピークが全国や県よりも高く正答数の多い層の割合も高くなっています。数学は、正答率が6割から8割の層が全国や県よりも厚くなっていますが、正答率5割までもう一歩という層も厚くなっており、更に力を伸ばすように指導することが必要と考えられます。

内容や領域面から見ると、一昨年まで、国語では小学校中学校共に「話すこと・聞くこと」

や「読むこと」が高い反面、「書くこと」に課題がある傾向がありましたが、今回の調査結果では改善が見られました。算数・数学では「図形」に課題がある傾向がありましたが、今回の結果では改善が見られました。しかし、小学校では「変化と関係」中学校では「資料の活用」に課題があり、児童生徒の力を伸ばすような指導をしていく必要があります。

【全国や長野県との平均正答率の比較】

<小学校 国語>

内 容	全国	県
国語全体	☆	☆☆
話すこと・聞くこと	☆	☆☆
書くこと	☆☆	☆☆
読むこと	☆	☆☆
言葉の特徴や使い方に関する事項	○	☆☆

<小学校 算数>

内 容	全国	県
算数全体	○	☆
数と計算	☆	☆
図形	☆☆	☆☆
測定	○	○
変化と関係	○	○
データの活用	☆	☆☆

<中学校 国語>

内 容	全国	県
国語全体	☆☆	☆☆
話すこと・聞くこと	☆☆	☆☆
書くこと	☆☆	☆☆
読むこと	☆☆	☆☆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	☆☆	☆

<中学校 数学>

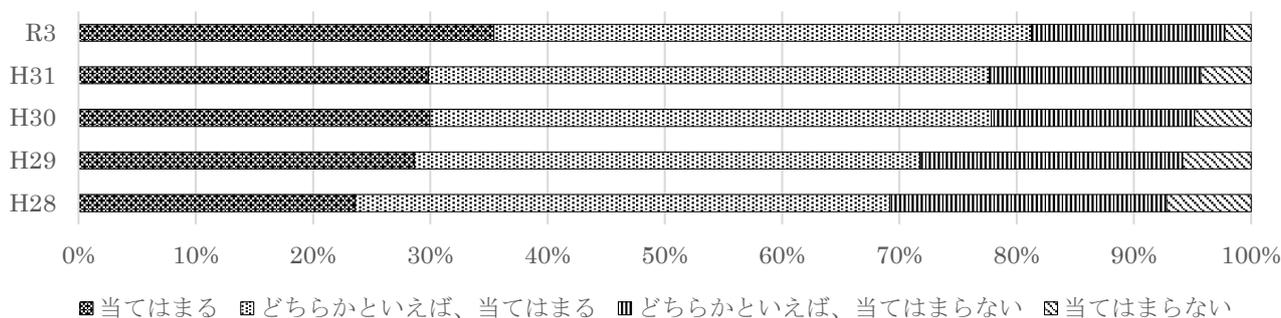
内 容	全国	県
数学全体	☆	☆☆
数と式	☆☆	☆☆
図形	☆	☆☆
関数	☆☆	☆☆
資料の活用	☆	○

※ 表中の記号の表す内容（正答率に対して）

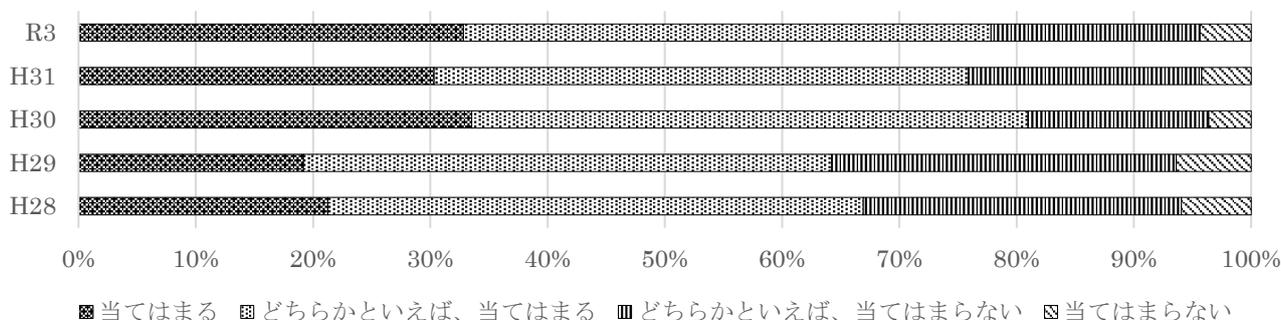
☆☆…+2.0～3.9 ☆…+1.0～1.9 ○±0.1～0.9

新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」に関わる質問紙調査の問い「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答を、中学校では一昨年度を少し上回り 76.8%の生徒がしています。また、小学校では一昨年度を上回り 80.3%の児童がしています。「協働的な学び」等を取り入れた授業改善が進んでいる様子がうかがえます。

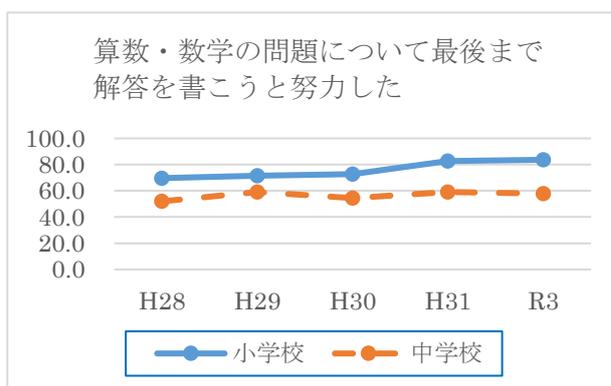
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
(小学校)



学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
(中学校)



過去の分析において、学習意欲や粘り強さの減少傾向が考えられるのではないかと懸念された質問で「算数・数学のわけや求め方を書く問題について、最後まですべての問題で解答を書こうと努力した」と答えた割合は小学生が県や全国を上回る 83.7%、中学生がほぼ同じ 57.9%であり、改善傾向がみられた一昨年度の結果とほぼ同じでした。また、国語についての同じような質問で「文章で書く問題について、最後まですべての問題で解答を書こうと努力した」と答えた割合は、小学生が県や全国を上回る 85.2%、中学生がほぼ同じ 74.9%で、算数・数学と同様の傾向が認められました。



【小学校の傾向と課題】

国語はどの内容についても概ね身についてきています。書くことについても改善が見られ、課題であった「理由を明確にし、自分の考えが伝わるように書く」ことを問う設問【3二】は全国を上回りました。ただし読むことの中で「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる

事柄を把握する」ことを問う設問は全国を少し下回りました。「問い」と「答え」がどのように構成されているか、筆者が論をどう進めているかという形式の理解に課題があります。

説明的な文章を読む場合には、内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄が文章全体を通してどのように構成されているかを正確に捉えることができるように指導していく必要があります。

算数では、平均正答率は全国とほぼ同じで、県を少し上回りました。正答数分布の傾向は全国や県とほぼ同様ですが、高い正答率の児童が多い反面、力を伸ばすことが必要な児童も一定数いると考えられます。

領域では、一昨年度に課題の見られた「図形」が最も低い正答率でしたが、県や全国を上回っているため、改善が図られていると考えられます。

設問を見ていくと、直角三角形の求積や小数倍の捉えのように、条件がはっきりとしている小問の正答率は全国を大きく上回っている反面、理由や説明を記述する小問では、必要な条件をそろえて記述する力に課題が見られました。また、速さに関する設問では全国を下回る小問が複数あり、さらに指導していく必要があります。

【中学校の傾向と課題】

国語では、すべての領域で全国、県を上回る、または少し上回る結果となりました。【2二】「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」ことを問う設問では、全国を大きく上回り、県を上回る結果となりました。他の領域の記述式の設問でも同様の傾向が見られました。ここから、記述する条件を捉える力、条件に沿って適切に答える力が定着していることがうかがえます。

一方で、【3四】「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」ことを問う設問では、無回答率が全国や県を上回っていることから、自分の読解を振り返ることで自分の考えを確かなものにするよう指導していく必要があります。

数学では、「数と式」「関数」の領域では県と全国を上回り、「図形」の領域では県を上回り、全国を少し上回る結果となりました。一方、「資料の活用」の領域では、全国を少し上回りましたが、県は少し下回る結果となりました。

【1】の整式の加法と減法の計算ができるかを問う設問や、【2】の数量の関係を一元一次方程式で表す設問、【4】の経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する設問で、県や全国を上回る結果となりました。

【8(1)】【8(2)】のヒストグラムから情報を読み取る設問や相対度数の必要性を理解しているかを問う設問で、県や全国を少し下回っています。具体的な場面で、ヒストグラムや相対度数を使うことの良さを実感できるよう、指導の工夫をする必要があります。

学習状況や生活の諸側面

【傾向と課題】

小学校・中学校ともに、学習状況や生活の諸側面に関わる児童生徒質問紙の多くの項目の肯定的な回答は、全国や県の平均を上回っており、安曇野市の子どもたちの良さがうかがわれます。

今までの調査結果と同様に朝食を毎日食べることや、起床・就寝時刻が一定していることから、多くの児童生徒が規則正しい生活を送っていることがうかがわれます。

また、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」と「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対する肯定的回答の多さから、安曇野市の児童生徒に粘り強く挑戦する心が育ってきていることがわかります。

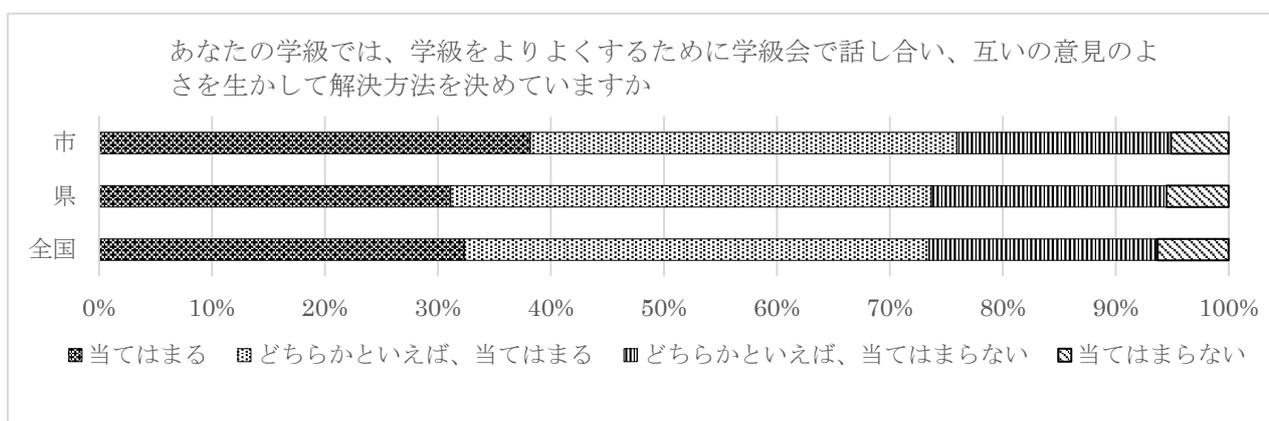
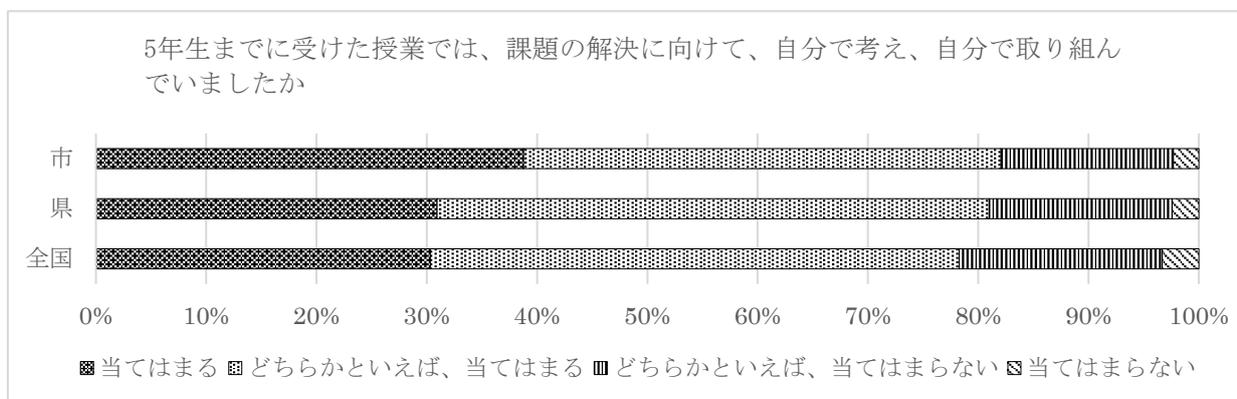
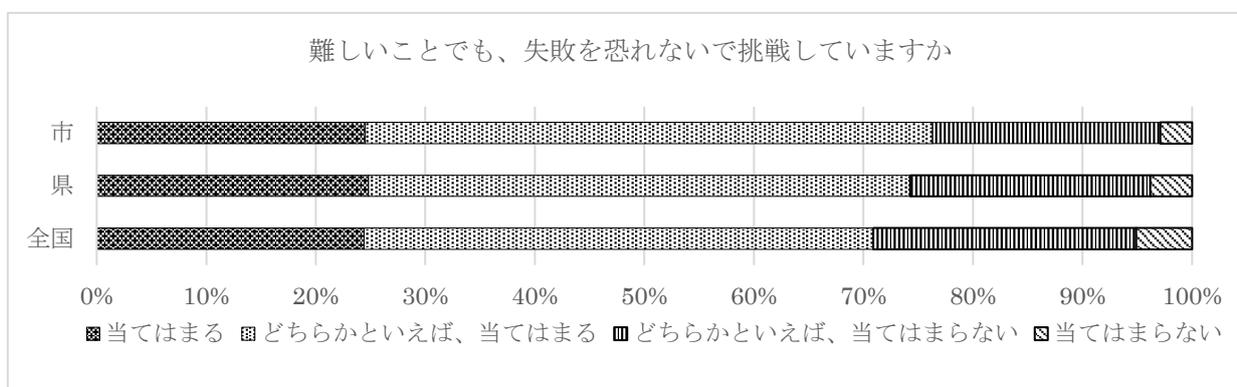
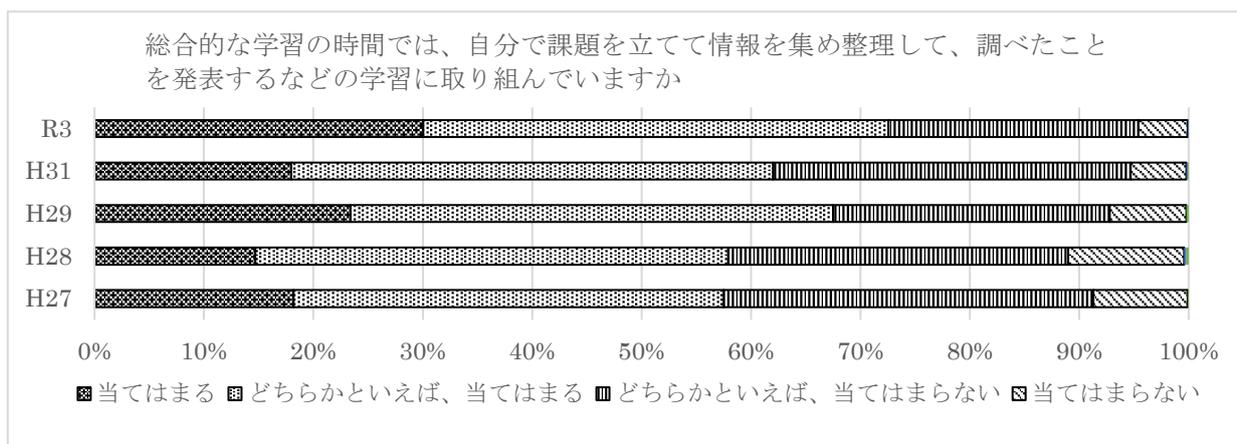
そのほか、学習面では主体的に学習する児童生徒が多いこと、生活面では地域行事に参加したり学級での話し合い活動が充実しており安定した学校生活を送ったりしている児童生徒が多いことも、安曇野市の特徴です。

一方、一昨年度の調査で課題とされた「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか」という質問に対する肯定的回答は、中学校では改善傾向がありましたが、小学校では横ばい傾向で、児童の課題意識に基づいた総合的な学習の時間の充実が求められます。

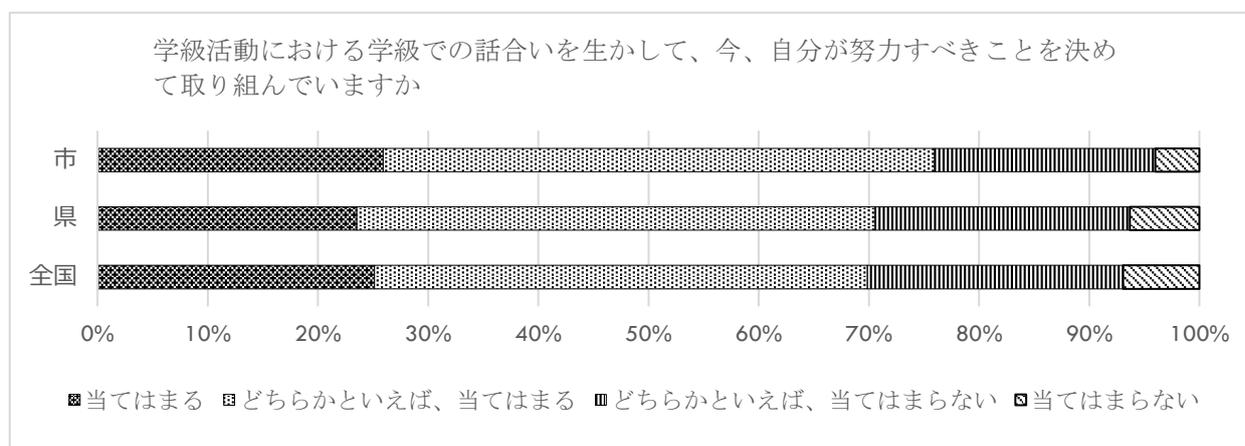
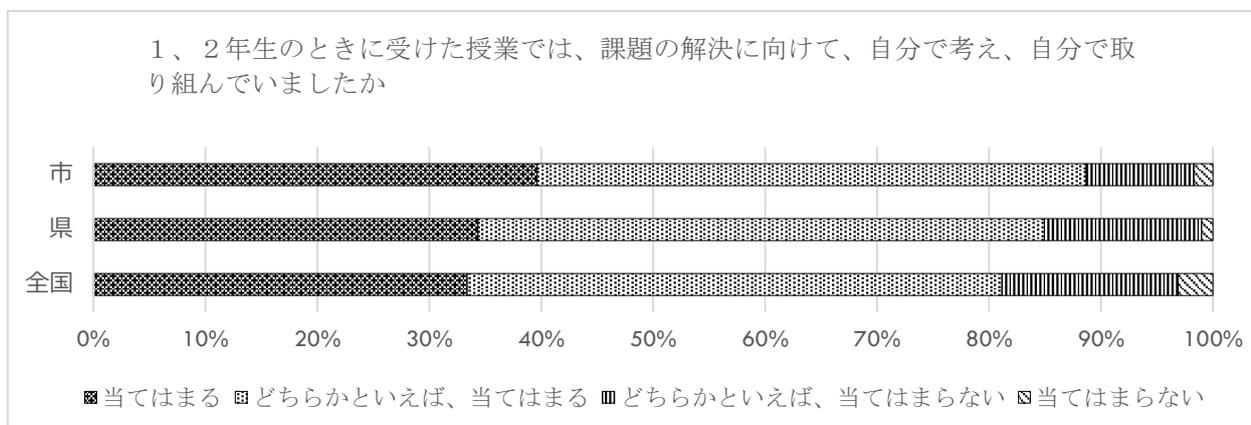
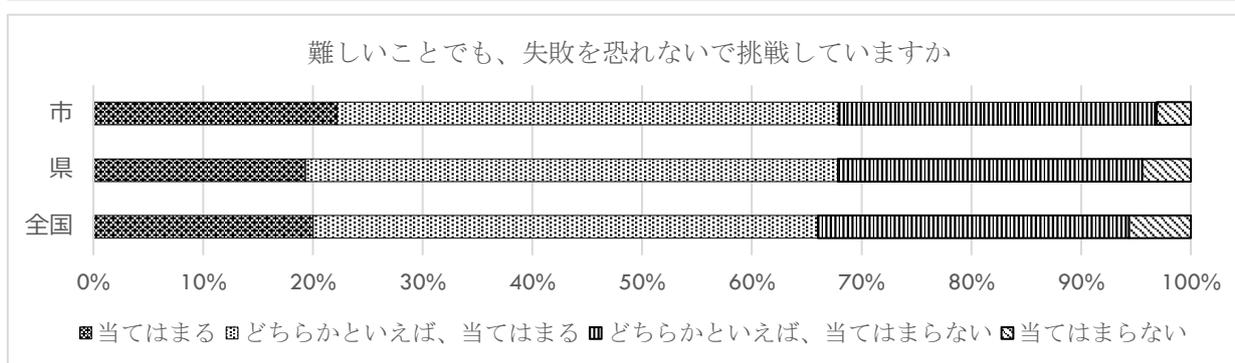
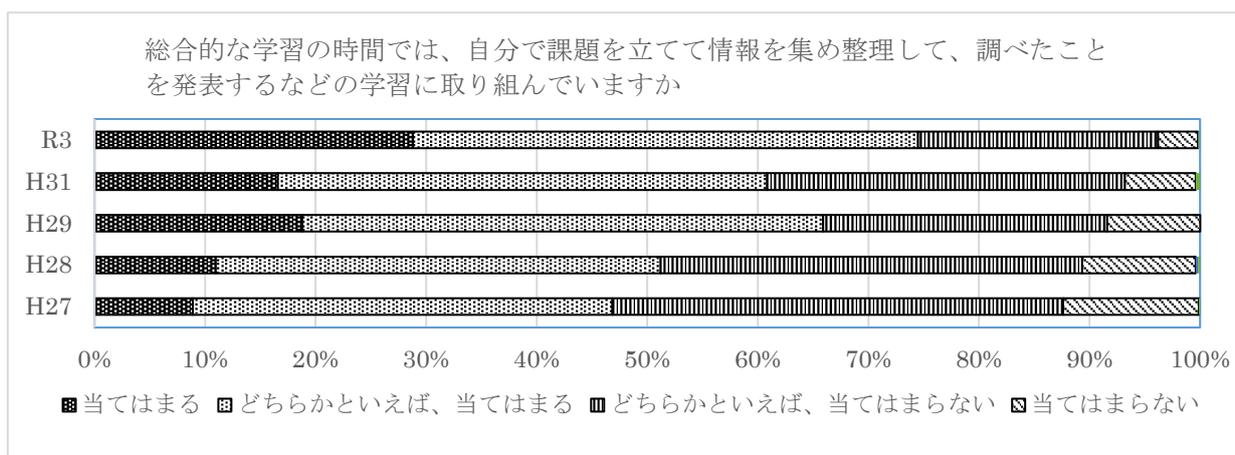
さらに、中学校では「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、「持っているが、約束はない」と回答した生徒が約4人に1人となっていて県や全国を大きく上回っています。近頃は、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について様々な問題が指摘され、そのことに起因した事案が多く発生している状況です。そのようなことを考慮すると、学校と家庭とが協力してネットモラルを指導していくことの必要性があると考えられます。

なお、今回の調査で特別に設けられた新型コロナウイルス感染症の児童生徒に及ぼしている影響に関しては、休校中の「勉強への不安感」、「生活の規則正しさ」、「計画的な学習」に対する質問がありましたが、それぞれについて肯定的な回答をした割合は、小学生…55.1%、72.3%、66.8%、中学生…64.0%、38.9%、51.9%で、「計画的に学習できた児童」が県や全国に比べ多かったこと以外は、ほぼ県や全国と同様の結果でした。

【小学校の質問紙調査より】



【中学校の質問紙調査より】



比較的正答率が高い傾向にある子どもの学習や生活の様子

学力調査結果と学習状況等調査結果のクロス集計を分析すると、次に示す質問に対して、「している」「当てはまる」「そう思う」と答えた児童生徒の正答率が比較的高い傾向が見られました。

【小学校・中学校共通】

◇普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

※より少ない時間を回答している児童生徒の方が、正答率が高い。

◇自分と違う意見を考えるのは楽しいと思えますか。

◇前学年までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。

◇前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

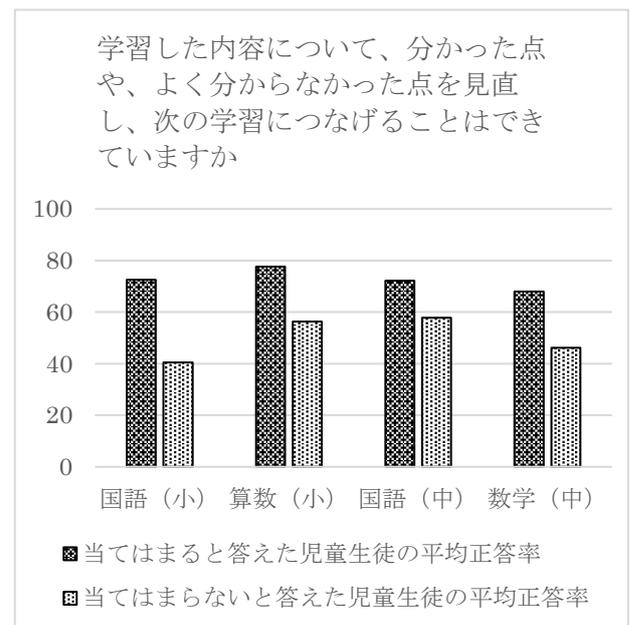
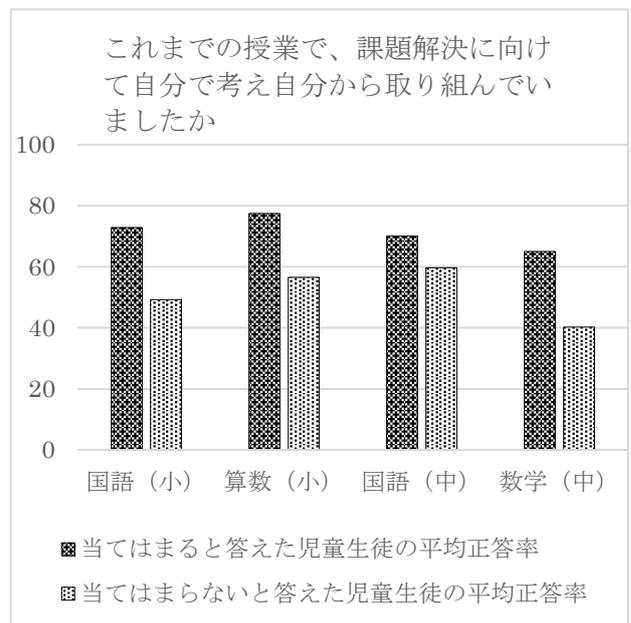
◇学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

◇国語の授業では、言葉の特徴や使い方について知識を理解したり使ったりしていますか。

◇国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか。

◇国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。

◇国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか。



- ◇算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずに方法を考えますか。
- ◇算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。
- ◇前学年までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。

【小学校】

- ◇自分には、よいところがあると思いますか。
- ◇難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。
- ◇自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。
- ◇家で自分で計画をたてて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。
- ◇地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。
- ◇友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。
- ◇学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。
- ◇総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
- ◇あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。
- ◇学級活動における学級会の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。
- ◇算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。
- ◇算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。

【中学校】

- ◇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日どれくらいの時間勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）
 - ※より多い時間を回答している生徒の方が、正答率が高い。
- ◇土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日どれくらいの時間勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）
 - ※より多い時間を回答している生徒の方が、正答率が高い。
- ◇道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。
- ◇新聞を読んでいますか。

調査の今後の活用

市教育委員会と各校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

市教育委員会は、

- (1) 全国学力・学習状況調査の分析から見えてくる児童生徒や学校の良さや課題を、日々の教育活動に活かせるように支援していきます。
 - ①国や県の動向を注視し、今日求められる学力とそれに対する学び方や指導・支援のあり方についての方向性を示します。(学力向上推進委員会など)
 - ②学校の願いに応じながら、教育指導室の学校訪問等で日々の授業改善を支援します。
- (2) 授業や学校生活、家庭学習などにみられる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会と連携して、調査・研究を行ったり、小中学校間の教職員の交流や研修などを推進したりしていきます。
 - ①各校で開催される授業研究会や研修会に他校からも参加できるようにし、月ごとの公開授業・研修会を、各校の協力を得て市内小中学校に発信していきます。

各校は、

- (1) 自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に活かすようにしていきます。そのために、以下の点に配慮します。
 - ①明らかに落ちているまたは伸びている領域の問題を分析する。
 - ②回答数が低い(0～2問程度)児童・生徒の課題等を分析する。
 - ③当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、hyper-QUやCRTなどの検査等と関連付けて分析し、全校の授業改善に活かせるようにする。
 - ④「安曇野市学力・体力向上4カ年計画」(平成30年度でまとめ終了)の観点からも分析する。
 - ⑤分析結果から、必要な補充・補完を計画し実施する。
- (2)「児童(生徒)質問紙」や「学校質問紙」から見えてくる良さや課題を、日々の指導や教育活動に活かしていきます。
- (3) 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題を知り、自ら改善していくことができるように、児童生徒と各家庭へ具体的な指導・助言や支援を行っていきます。
- (4) 学校での学習や生活の基本的な習慣を形成するとともに家庭学習の定着のために、市教育委員会や各家庭、地域と連携をしながら取り組んでいきます。また、様々な機会を通して各家庭に協力を呼びかけたり、支援をしたりしていきます。